

ロシア革命 100 年とグラムシ

2017 年 9 月 19 日大谷美芳

(1)八木コメントと旭凡論文について

八木コメントは全部を、旭凡論文は膨大なのでロシア革命総括部分をざっと読みました。

①具体的な分析はじっくり読んで勉強させてもらいますが、10 年・20 年といったスパンで大きな流れをつかむべきである(具体的に見ていないと私は批判されるでしょう)。

②政治的文章だから明確に結論を述べるべきである(私は論証がないと批判されるでしょう)。以前2人と話したところも含めて判断して、スターリン主義を、八木コメントは官僚制国家資本主義と認めているのであろうが、旭凡論文は「国家社会主義」、つまりは「官僚化した労働者国家」という第2次ブンドのレベル)に止まっている。

官僚主義は上部構造(イデオロギーと政治)。その唯物論的基礎を経済的土台に求めなくてはならない。

「官僚主義が国家機構をとらえ、かつ生産過程の組織と結びつくとき、それは一つの独自の社会的力として確立し、生産と分配の指揮権をもって全社会を制圧していく。それは明白に独自の階級的地位と力である。工業化と農業集団化を通じて明確に一つの社会的体制へと転化した。」(八木コメント)

「独自の階級的地位と力」は官僚ブルジョア階級、「明確に一つの社会的体制」は官僚制国家資本主義、なぜ明確に言い切らないのか？

その官僚主義はどこからきたのか？ 先験的に存在した？ 資本主義の残滓、奴隷制・封建制・資本主義に至る国家を道具とした階級支配が残したもの。それは最初はイデオロギー(スターリンが人格的典型)、それが政治(党と国家)と経済を「上から」捉えた。

それはあったし、私もかつてはその論理だった。もともとは中国の文化大革命。

しかし、経済・機械制大工業が官僚主義を必要とし生み出し成長させた。

経済的土台に根拠=つかみどころがないと「上から」つかめない。この結果、今度は官僚主義が機械制大工業という経済的土台をもって「下から」政治と思想をつかみ捉え支配した。私はこのことを『資本主義終焉の実相』で学びました。

官僚主義の唯物論的基礎を経済的土台に求めてこそ、官僚主義に対する批判と闘争が可能になる。官僚主義を防止できる。

こうして、機械制大工業が生み出し成長させた官僚主義による官僚制国家資本主義、それに対するコンミュン・ソヴィエト型国家による労働と生産の大衆的自主的管理、というのが総括の眼目になる。

ブンド系はいずれこれで一致するでしょう。

総括はさらに深めなくてはならない。その将来のコンミュン・ソヴィエト型国家による労働と生産の大衆的自主的管理を、今、現代的に準備するのは何か？ 人民民主主義=革命的民主主義の綱領(新開さんの「過渡的綱領」)による人民の資本主

義を統制する「陣地戦」、となる。

民主主義革命であったロシア革命と中国革命は「プロレタリアートと農民の革命的民主主義的独裁」と「人民民主主義独裁」でプロレタリア階級=共産党が国家権力を握って上から資本主義を統制しようとした。これに対して、社会主義革命に直面する日本では、国家権力を握っていないので、下から資本主義を統制する。

しかし、人民=プロレタリア階級が資本主義を統制し、プロレタリア階級独裁=社会主義革命の有利な条件を創り出す点では、本質的に同一。

多分、ブンド系はこのような内容での一致にいずれ行き着くと思う。

人民民主主義の「陣地戦」と同時に、「機動戦」つまりプロレタリア階級独裁=社会主義革命の綱領に基づいて革命党が直轄する革命の軍隊による革命戦争が必要。ここでの一致にもブンド系はいずれ行き着くと思う。

そういう想定で、「ロシア革命・中国革命とML主義の総括」というホーム・グラウンドで考えていくつもりです。『情況』の「10・8羽田闘争 50年とロシア革命 100年を考える」でも書きました。

(2) 『未来』の大伴論文について

「陣地戦とはソビエトあるいはコンミュンを形成するたたかいです。それは民主主義がブルジョア的な性格からプロレタリア的な性格へと変化していく過程です。その中には国家権力の奪取と新たな国家の形成という問題をはらんでいます。」

「革命党はグラムシのいう機動戦に対応します。機動戦とは武装蜂起などの正面戦です。」

「異議ナシ！」 考えの一致にびっくりし驚きます。

70年闘争で武装闘争を企図したことの総括をずっと考え続けると結局こうなる。言い換えると以下のようなになる。

人民民主主義の「陣地戦」で人民のコンミュン・ソヴィエト型組織は形成される。かつての全共闘は社会と人民のほんの一部である大学と学生だけを基盤としたが、その全社会化と全人民化と想定できる。

革命党の軍隊が「機動戦」でブルジョア階級独裁国家を暴力革命=革命戦争で打倒する。

かつての新左翼諸派の党派部隊の発展と想定でき、おそらく直轄軍隊を持つ複数の党派の共闘になる。その後、コンミュン・ソヴィエト型組織が全権力を掌握してプロレタリア階級独裁国家(これは共闘=統一戦線)となれば人民民主主義は社会主義に転化する。

ただ、党については中核派だから結局は「共産主義の母胎論」になっている。ブンドは「革命の道具論」。